

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・裁縫実習や調理実習は、興味をもって意欲的に取り組む児童が多く、基本的な知識や技能を身に付けることができた。
- ・ICT 機器を効果的に活用することで、手縫いやミシン縫いにおける技能の習得に役立った。
- ・児童一人一人がタブレット端末を活用して作品の途中経過や完成品を記録・保存することで、活動の振り返りや作品鑑賞に役立った。
- ・学んだことを実生活に生かす意識付けを行うことで、家族の一員としてできることに積極的に関わろうとする姿勢や製作した物を生活に役立てようとしたりする姿を見ることができた。

(2) 課題

5・6年共通

- ・生活経験や興味によって進捗や完成度に差が生じるため、特に裁縫では、個々の児童に応じた技能の支援が必要である。そのため、家庭科ボランティアの協力を得ている。
- ・課題への取りかかりはよいが、知識として理解しなければならない内容についての習得に時間を要す。

2 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
実践的・体験的な活動を多く取り入れ、児童が確かな知識・技能が身に付くように家庭生活と学習した知識を結び付けられるよう指導する。 I C T機器を活用したり実物を用いた実際の操作を示したりするなど具体的なイメージをもたせ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 基本的な技能のやり方は教えるが、自分なりにやり易い方法を見付け、技能方法に幅をもたせる。 調理実習を行う時期については単元の入れ替えも想定し、見通しをもって計画を立てる。	計画の段階で作業の手順のポイントを図やキーワードで示し内容を確認する。また、準備から片付けまで見通しをもって取り組めるよう掲示方法を工夫する。 装飾が中心となる作品製作ではテーマを決めて取り組むようにする。 対話的な活動をする際には、話し合う内容を明確に示す。 表現活動においては、教科を横断的に捉え、既習事項を想起させながら取り組めるようにする。 タブレットを活用し、作品写真や感想を保存し皆で共有しあう。	身に付けた技能を生かせる学習単元を設定し、学習に対しての楽しさや活用する喜びを味わわせる。 自分の活動や作品を振り返り、改善できているところを賞賛する。 学習した内容を実生活に反映させ、そこからさらに課題を見いだしていくことのできる学習を浸透させていく。